

お客様各位

大建工業株式会社

防耐火認定書類（写）の使用に際してのご注意

拝啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度は弊社製品をご採用またはご検討いただき誠に、ありがとうございます。

ご要望の表記資料を使用いただく際に、注意していただきたい事項がございます。下記事項を、ご確認、ご了解の上、ご利用いただくようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 認定書は、防耐火構造上、国土交通大臣に認められた構造仕様の範囲を示すものです。しかし、実際の設計、施工においては、認定書と共に弊社および各材料メーカーのカタログ、施工要領書に記載の事項をご確認いただき、それに従ってください。
2. 各防耐火認定ごとに、建物の構造（軸組・枠組）、外装仕上げ材の仕様（基材、厚さ、形状等）、工法（通気、直張り、充填断熱、外張り断熱等）、断熱材の仕様、屋内側防火被覆材（内装材）の指定の有無など認定範囲が異なりますので十分ご確認ください。
3. 認定書は、認定書構造をご採用いただいた物件の確認申請、あるいは防耐火構造としての仕様確認のためにご提供するものです。本来の目的以外ではご使用されないよう、お願いいたします。

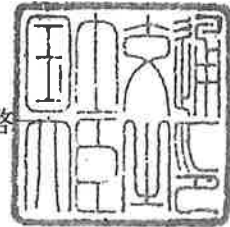
以上

認 定 書

国 住 指 第 4 3 2 7 号
平成 31 年 4 月 9 日

大建工業株式会社
代表取締役社長 億田 正則 様

国土交通大臣 石井 啓



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号の二及び同法施行令第 107 条の 2 第二号（軒裏：30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
QF030RS-0336
2. 認定をした構造方法等の名称
めっき鋼板製換気材・両面水酸化アルミニウム混入ロックウール板張水酸化アルミニウム混入火山性ガラス質堆積物板張／木製下地軒裏
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：めっき鋼板製換気材・両面水酸化アルミニウム混入ロックウール板張水酸化アルミニウム混入火山性ガラス質堆積物板張／木製下地軒裏

2. 寸法等：

寸法等の一覧を表1に示す。

表1 寸法等の一覧

項 目	仕 様
軒の出	100mm～2000mm
軒の幅	構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法
軒の形状	勾配又は水平

3. 主構成材料：

主構成材料の一覧を表2に示す。

表2 主構成材料の一覧

項 目	仕 様
被覆材	材料：（１）から（３）のうち、いずれか一仕様とする （１）NM-4131（アクリル樹脂系塗装／両面水酸化アルミニウム混入ロックウール板張／水酸化アルミニウム混入火山性ガラス質堆積物板、有機質量722g/m²以下） （２）NM-4132（アクリル樹脂系塗装／両面水酸化アルミニウム混入ロックウール板張／水酸化アルミニウム混入火山性ガラス質堆積物板、有機質量770g/m²以下） （３）NM-4133（ウレタン樹脂系塗装／アクリル系樹脂混抄紙張／アクリル樹脂系塗装／両面水酸化アルミニウム混入ロックウール板張／水酸化アルミニウム混入火山性ガラス質堆積物板、有機質量831g/m²以下） 厚さ：12(±1)mm 表面形状：平滑 端部形状：（１）から（３）のうち、いずれか一仕様又は併用とする （１）ベベル （２）合いじゃくり （３）スクエア
野縁	材料：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様とする （１）製材、集成材、単板積層材（日本農林規格） （２）平成12年建設省告示第1452号の第六号に規定する無等級材又は第七号に規定する木材 断面寸法：30mm以上×30mm以上 被覆材目地部は二本組又は30mm以上×60mm以上 配置： （軒の出が100mm以上500mm以下の場合） 軒の出方向は壁際のみ、軒の幅方向は455mm以下の間隔 （軒の出が500mmを超え2000mm以下の場合） 軒の出方向は壁際と壁際から500mm以下の間隔、軒の幅方向は455mm以下の間隔

注）NM：国土交通大臣認定不燃材料

つづく

表2のつづき

	項 目	仕 様
軒 天 換 気 材	本体・裏面部材 (壁際用、軒先用共通)	材料：(1) から (3) のうち、いずれか一仕様とする (1) 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) (2) 溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) (3) (1)、(2) に表面化粧を施したもの 表面化粧(塗装) 主成分：(1) から (4) のうち、いずれか一仕様又は併用とする (1) ポリエステル樹脂系 (2) アクリル樹脂系 (3) ウレタン樹脂系 (4) フッ素樹脂系 化粧量：20.4 g/m以下(有機質量：12.0 g/m以下) 板厚さ：0.35(±0.04)mm以上 長さ：910(±10)mm～3,035(±10)mm 換気孔の大きさ／1孔あたり：幅4(±0.4)mm以下×奥行28.5(±3)mm以下 [換気孔面積／1孔あたり：1.14cm ² 以下] 換気孔総面積：152cm ² /m以下
	水返し板 (壁際用のみ)	材料：(1) から (3) のうち、いずれか一仕様とする (1) 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) (2) 溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) (3) (1)、(2) に表面化粧を施したもの 表面化粧(塗装) 主成分：(1) から (4) のうち、いずれか一仕様又は併用とする (1) ポリエステル樹脂系 (2) アクリル樹脂系 (3) ウレタン樹脂系 (4) フッ素樹脂系 化粧量：6.9 g/m以下(有機質量：4.1 g/m以下) 板厚さ：0.35(±0.04)mm以上 長さ：910(±10)mm～3,035(±10)mm
	蝶番テープ (壁際用のみ)	材料：PET基材・アクリル粘着テープ 質量：6.7 g/m以下 長さ：910(±10)mm～3,035(±10)mm
	ジョイント カバー	材料：(1) から (4) のうち、いずれか一仕様とする (1) なし (2) 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) (3) 溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) (4) (2)、(3) に表面化粧を施したもの 表面化粧(塗装) 主成分：(1) から (4) のうち、いずれか一仕様又は併用とする (1) ポリエステル樹脂系 (2) アクリル樹脂系 (3) ウレタン樹脂系 (4) フッ素樹脂系 化粧量：0.8 g/個以下(有機質量：0.4 g/個以下) 板厚さ：0.35(±0.04)mm以上 長さ：40(±4)mm以上

注) PET：ポリエチレンテレフタレート

つづく

表2のつづき

項 目	仕 様
下地材	材料：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様とする （１）製材、集成材、単板積層材、合板（日本農林規格） （２）平成12年建設省告示第1452号の第六号に規定する無等級材又は第七号に規定する木材 幅寸法：24mm以上
吊木	（軒の出が500mmを超え2000mm以下の場合に使用する。ただし軒の形状が勾配タイプで、野縁をたるきに取り付ける場合は省略可） 材料：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様とする （１）製材、集成材、単板積層材（日本農林規格） （２）平成12年建設省告示第1452号の第六号に規定する無等級材又は第七号に規定する木材 断面寸法：25mm以上×30mm以上 配置：軒の出方向に500mm以下、軒の幅方向に1000mm以下

つづく

4. 副構成材料：
副構成材料の一覧を表3に示す。

表3 副構成材料の一覧

項 目	仕 様
目地部材	被覆材目地仕様が①面取り突付け、②突付け、③合いじゃくりの場合 材料：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様とする （１）なし （２）シーリング材 材質：1)から4)のうち、いずれか一仕様とする 1)アクリル系 2)ウレタン系 3)シリコーン系 4)ポリサルファイド系 被覆材目地仕様が④金属ジョイナーの場合 材料：金属ジョイナー(H型) 材質：1)又は2)のうち、いずれか一仕様とする 1)ステンレス鋼製 2)鋼製
留付材	被覆材用 材料：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様又は併用とする ただし、単板積層材、合板の木口に留付ける場合は（２）に限る （１）くぎ （２）ねじ（防錆処理品） 材質：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様又は併用とする （１）鋼製 （２）ステンレス製 寸法：φ2.15mm以上×長さ38mm以上 留付間隔：200mm以下 軒天換気材用（野縁側：壁際用、軒先用共通） 材料：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様又は併用とする ただし、単板積層材の木口に留付ける場合は（２）に限る （１）くぎ （２）ねじ（防錆処理品） 材質：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様又は併用とする （１）鋼製 （２）ステンレス製 寸法：φ1.9mm以上×長さ32mm以上 留付本数：野縁1本あたり1本以上 軒天換気材用（壁側：壁際用のみ） 材料：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様又は併用とする （１）くぎ （２）ねじ（防錆処理品） 材質：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様又は併用とする （１）鋼製 （２）ステンレス製 寸法：φ1.9mm以上×長さ32mm以上 留付本数：軒天換気材の端部に1本以上

つづく

表3のつづき

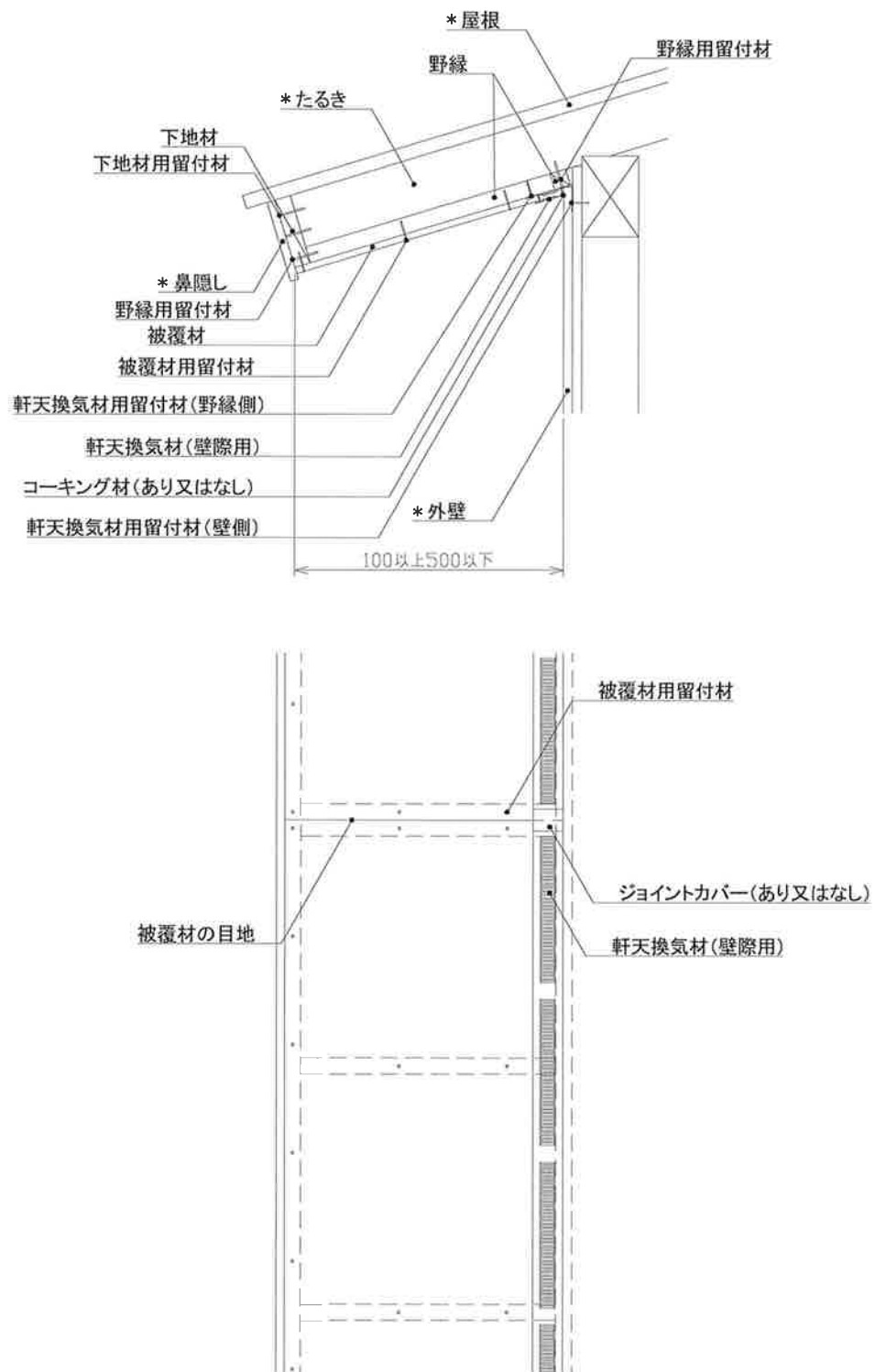
項 目	仕 様
留付材 (つづき)	軒天換気材用（鼻隠し側：軒先用のみ） 材料：ねじ（防錆処理品） 材質：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様又は併用とする （１）鋼製 （２）ステンレス製 寸法：φ3.8mm以上×長さ45mm以上 留付間隔：303mm以下
	野縁用 材料：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様又は併用とする （１）くぎ （２）ねじ（防錆処理品） 材質：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様又は併用とする （１）鋼製 （２）ステンレス製 寸法：φ2.75mm以上×長さ50mm以上 留付方法：軒の出方向は両端部に1本以上、軒の幅方向は500mm以下の間隔 （軒の出が500mmを超え2000mm以下の場合は、吊木（吊木を省略する場合は同様の間隔でたるき）に留付ける。）
	下地材用 材料：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様又は併用とする （１）くぎ （２）ねじ（防錆処理品） 材質：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様又は併用とする （１）鋼製 （２）ステンレス製 寸法：φ2.75mm以上×長さ50mm以上 留付本数：たるき1本あたり2本以上
コーキング材	材料：（１）又は（２）のうち、いずれか一仕様とする （１）なし （２）あり 材質：1)から7)のうち、いずれか一仕様又は併用とする 1)アクリル系 2)変成シリコーン系 3)ウレタン系 4)アクリルウレタン系 5)ポリサルファイド系 6)変成ポリサルファイド系 7)シリコーン系

5. 構造説明図：

構造説明図を図1～図11に示す。

5-1. 被覆材が勾配仕様で軒天換気材が壁際の場合
(軒の出が100mm以上500mm以下)

(単位：mm)

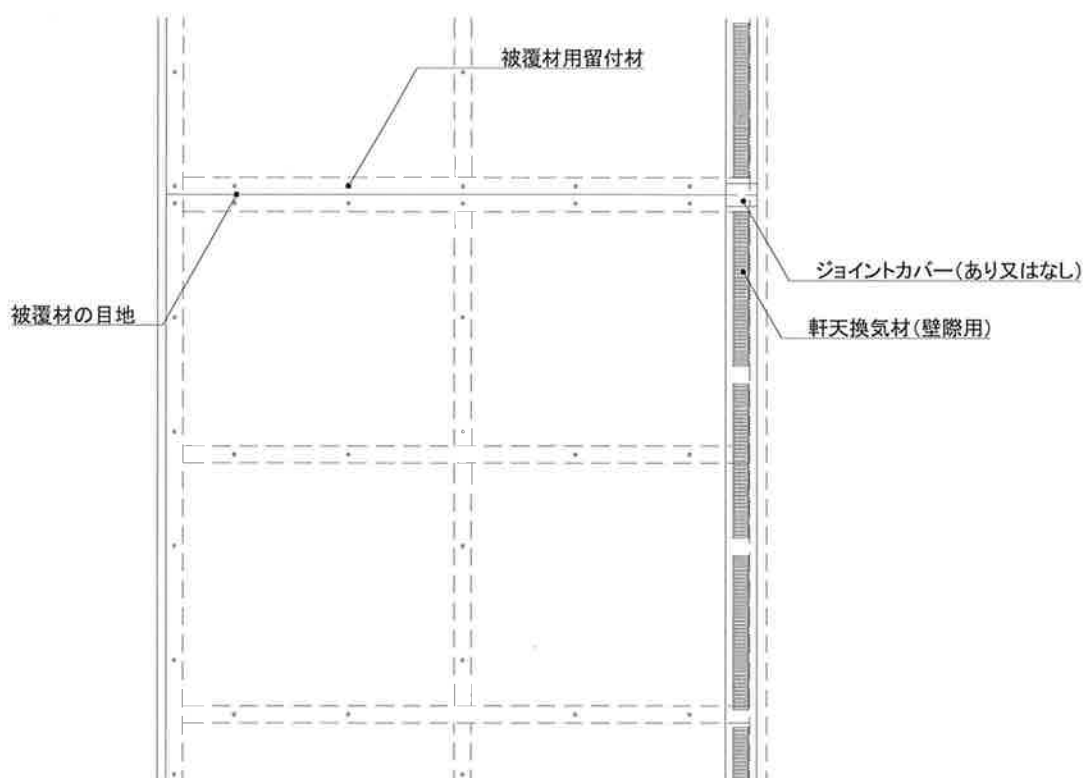
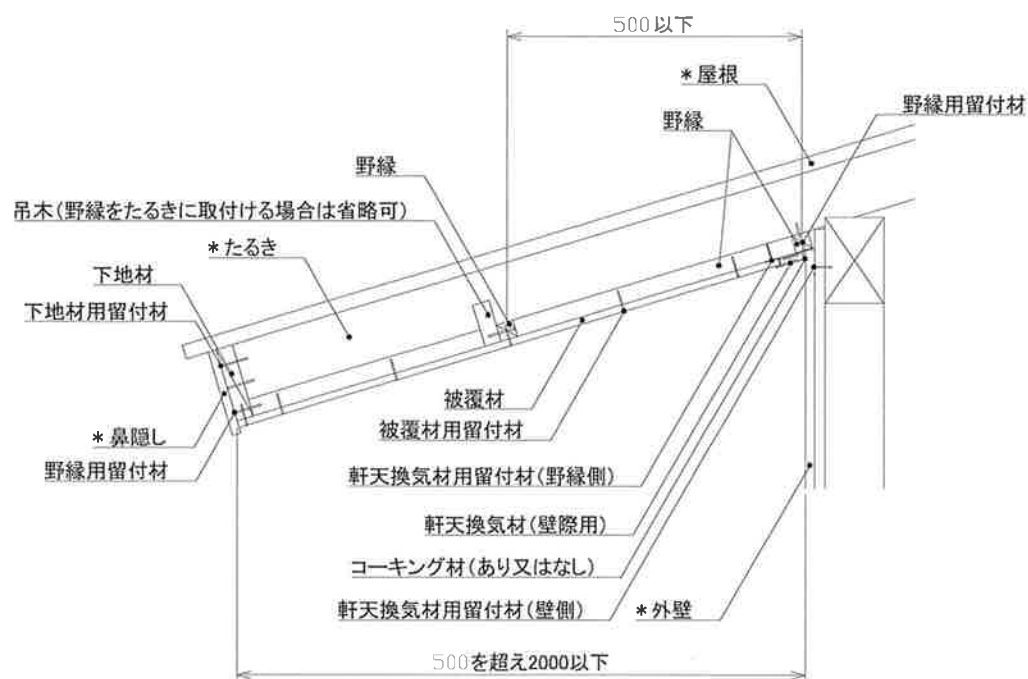


*評価対象外

図1 構造説明図

(軒の出が500mmを超え2000mm以下)

(単位：mm)

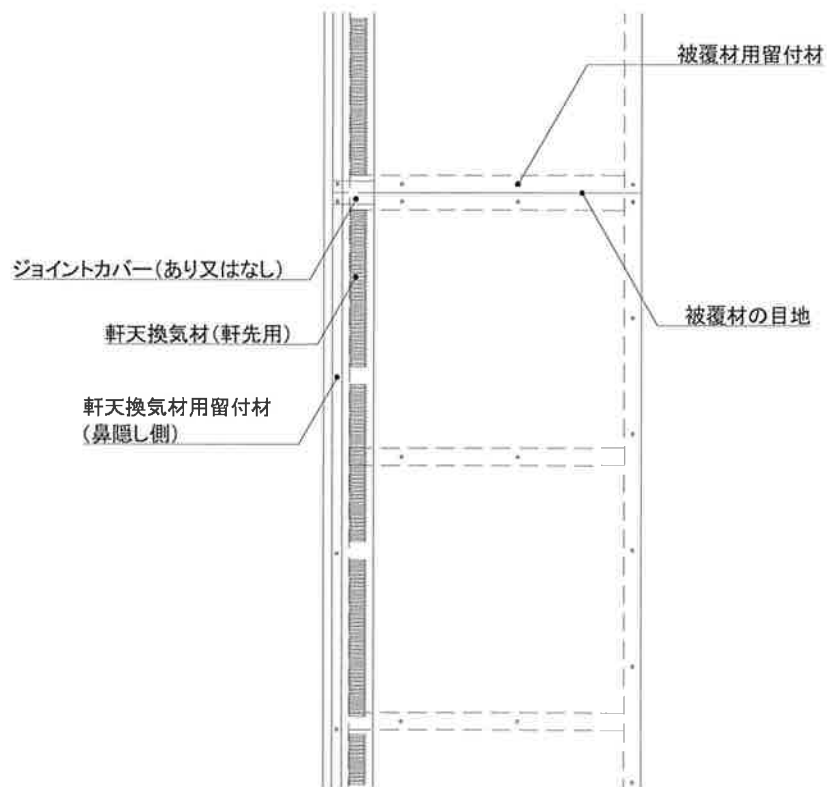
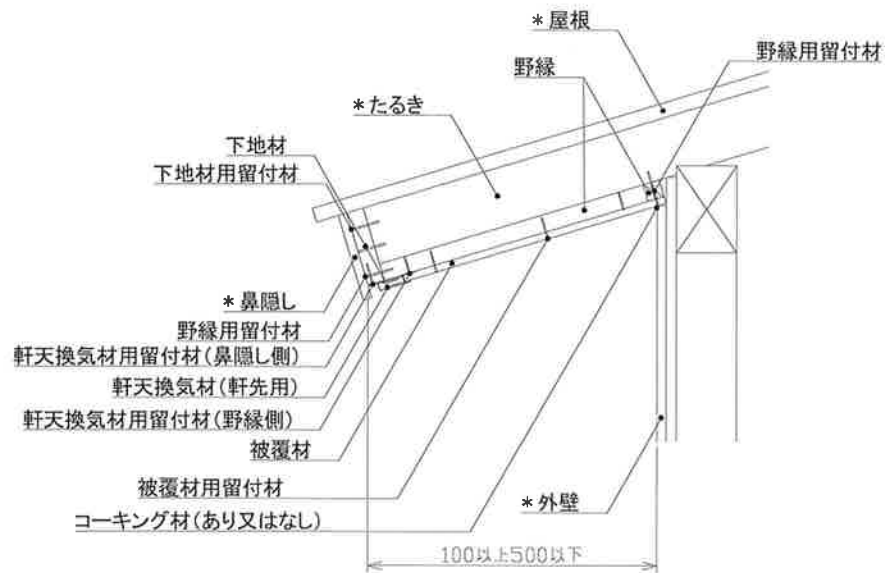


* 評価対象外

図2 構造説明図

5-2. 被覆材が勾配仕様で軒天換気材が軒先の場合
(軒の出が100mm以上500mm以下)

(単位：mm)

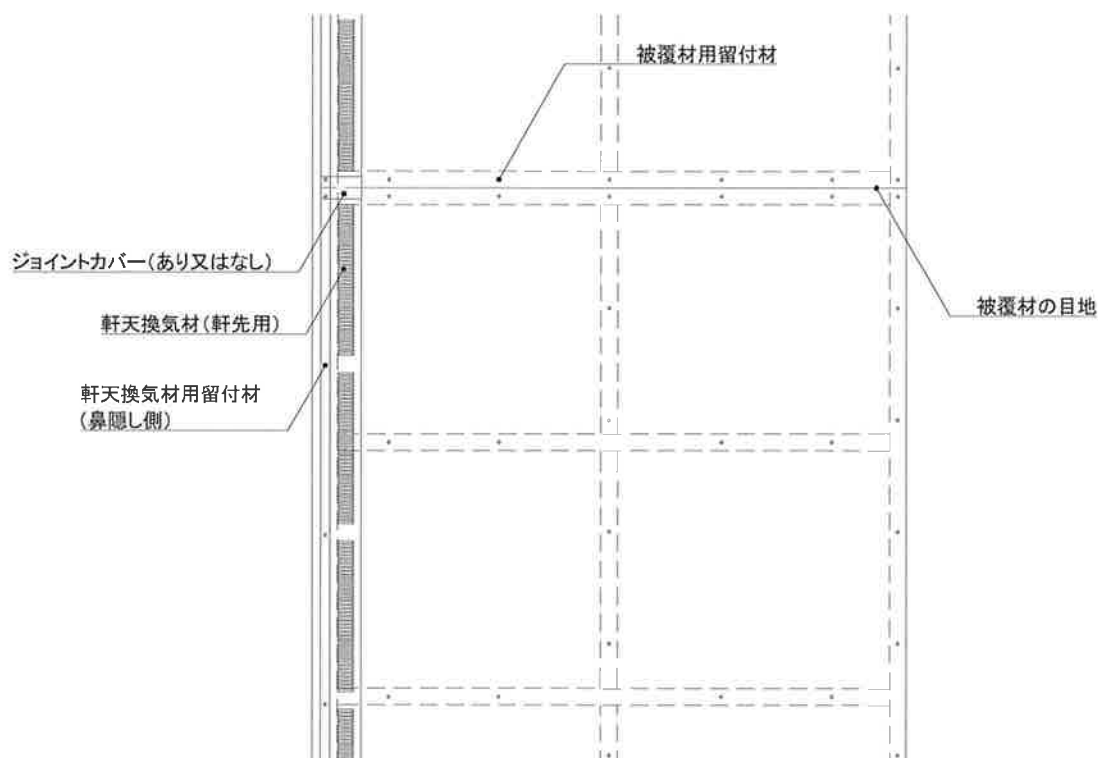
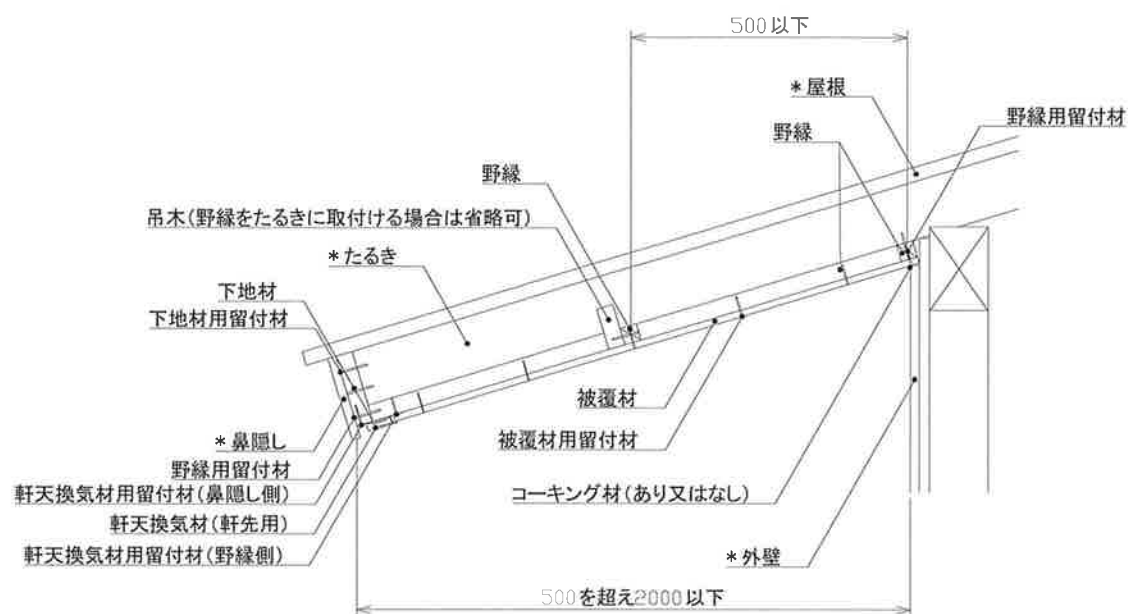


*評価対象外

図3 構造説明図

(軒の出が500mmを超え2000mm以下)

(単位：mm)

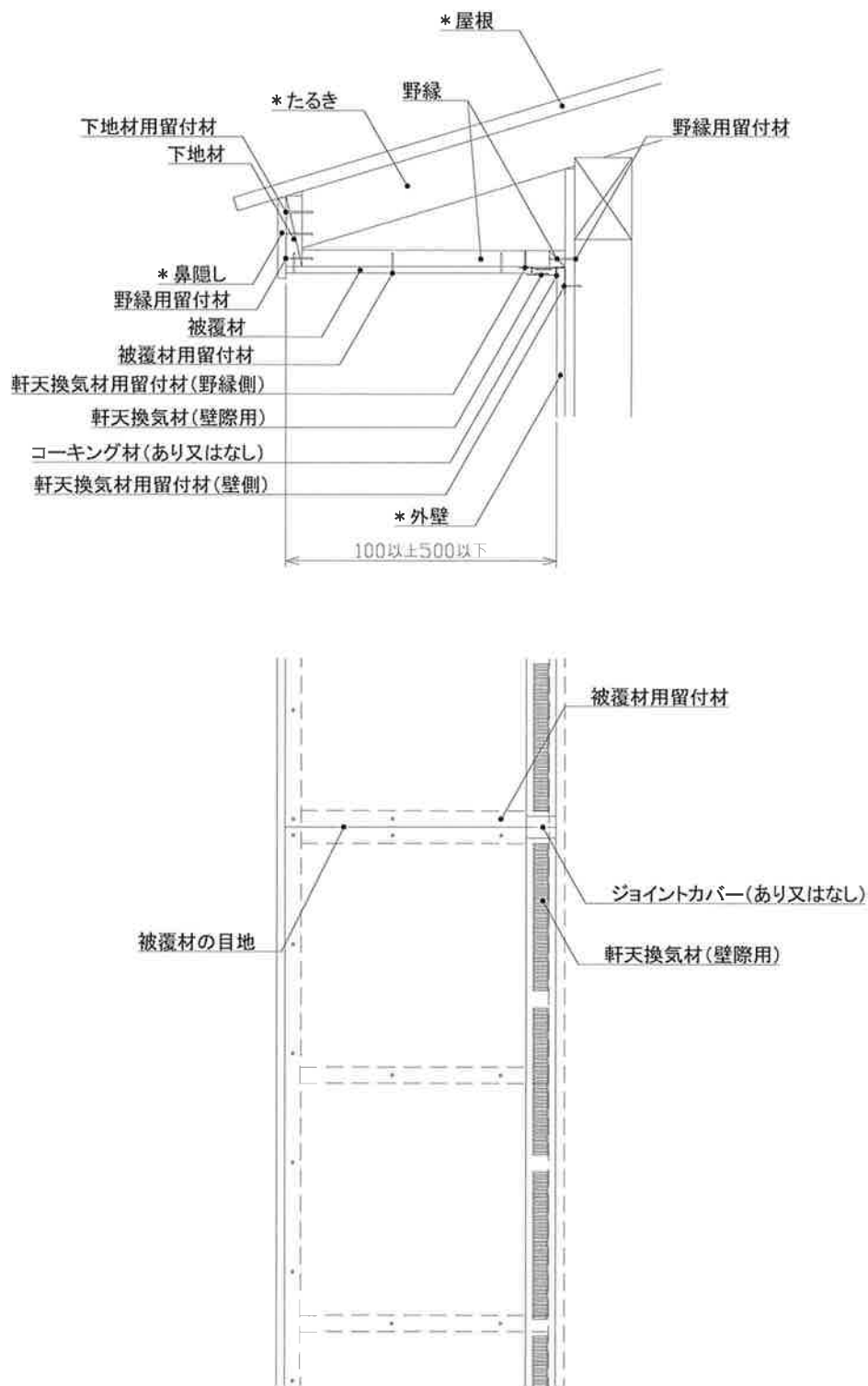


* 評価対象外

図4 構造説明図

5-3. 被覆材が水平仕様で軒天換気材が壁際の場合
(軒の出が100mm以上500mm以下)

(単位：mm)

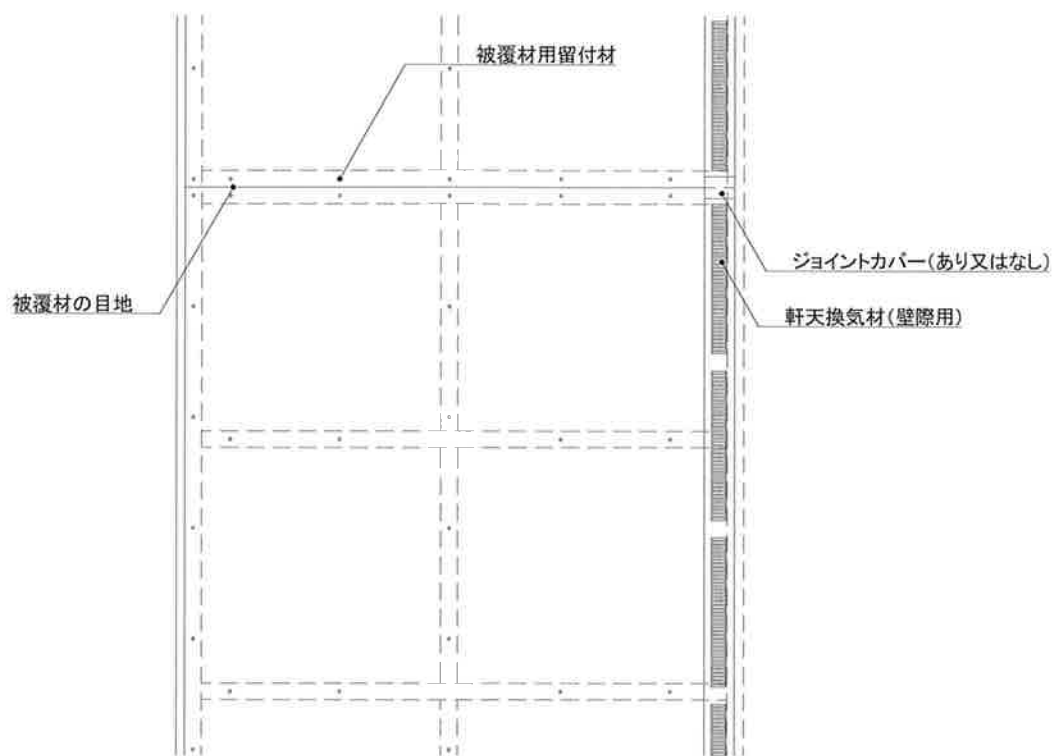
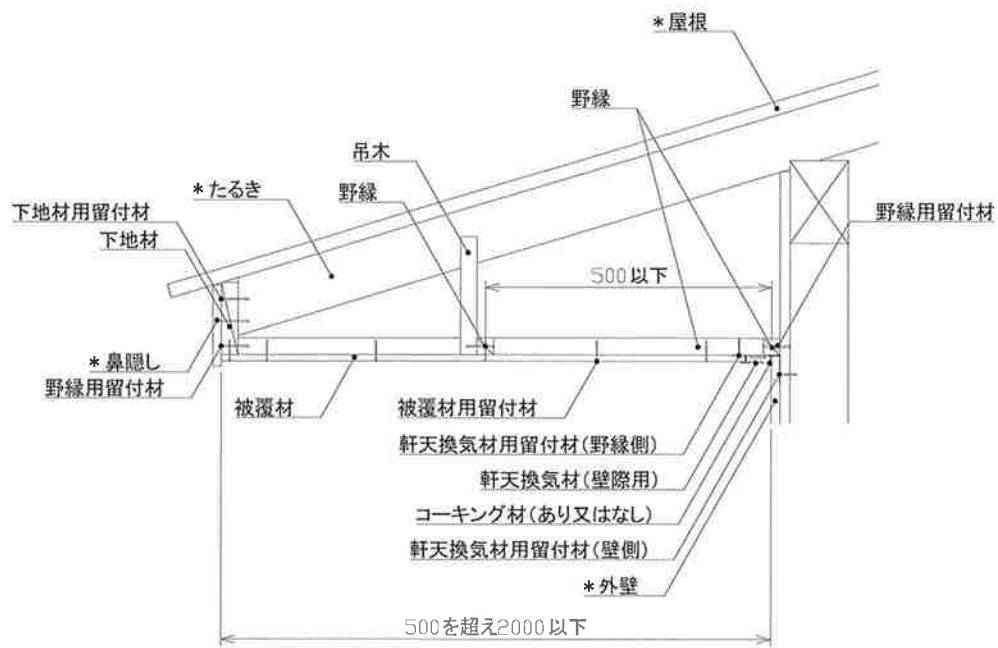


*評価対象外

図5 構造説明図

(軒の出が500mmを超え2000mm以下)

(単位：mm)

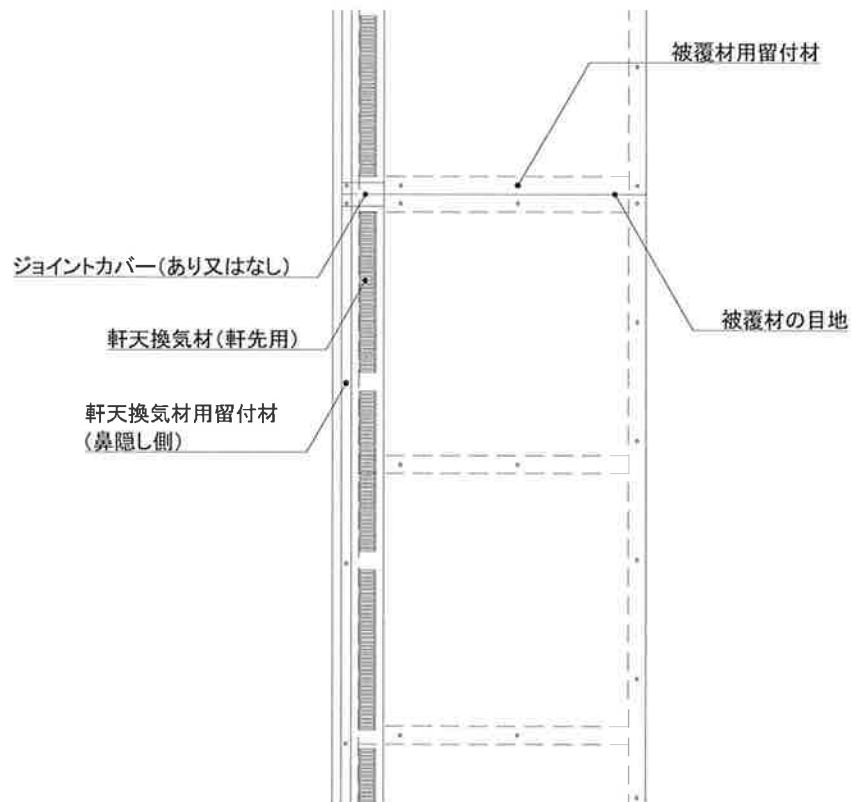
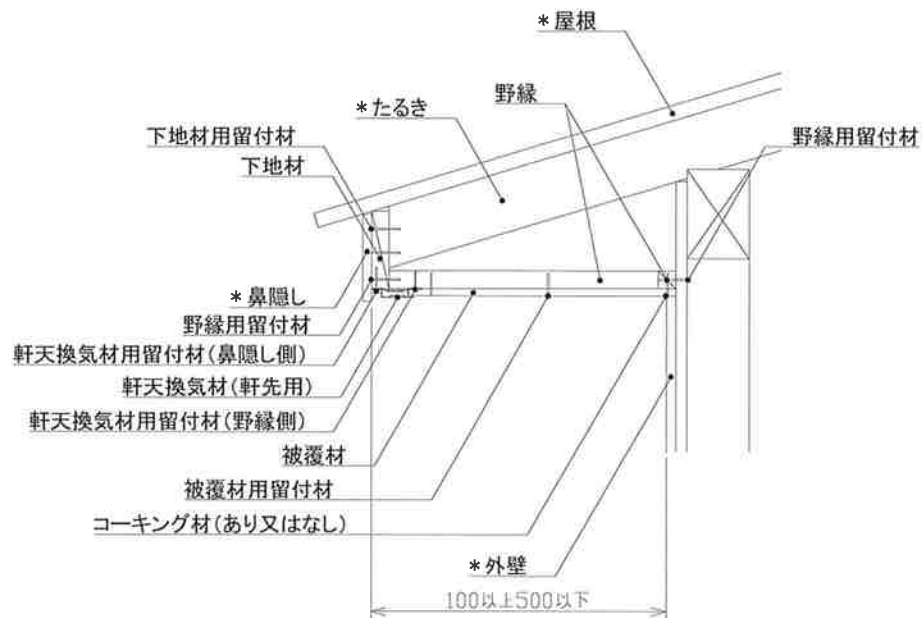


*評価対象外

図6 構造説明図

5-4. 被覆材が水平仕様で軒天換気材が軒先の場合
(軒の出が100mm以上500mm以下)

(単位：mm)

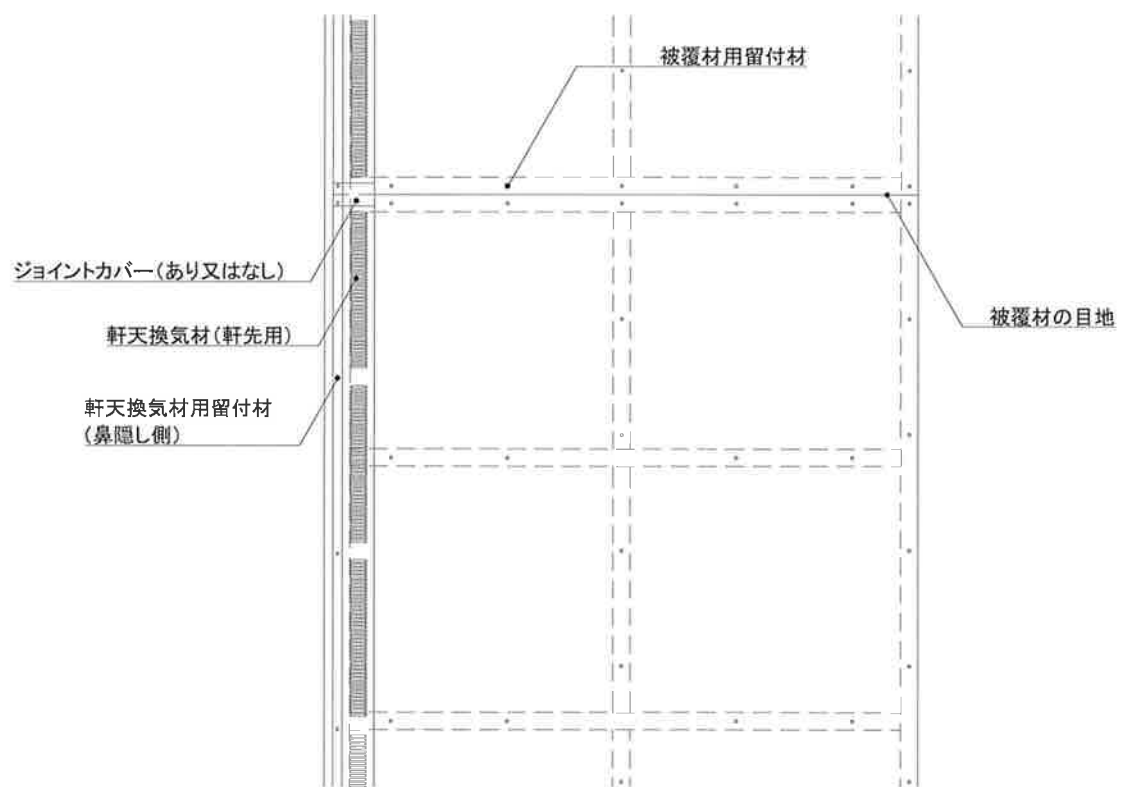
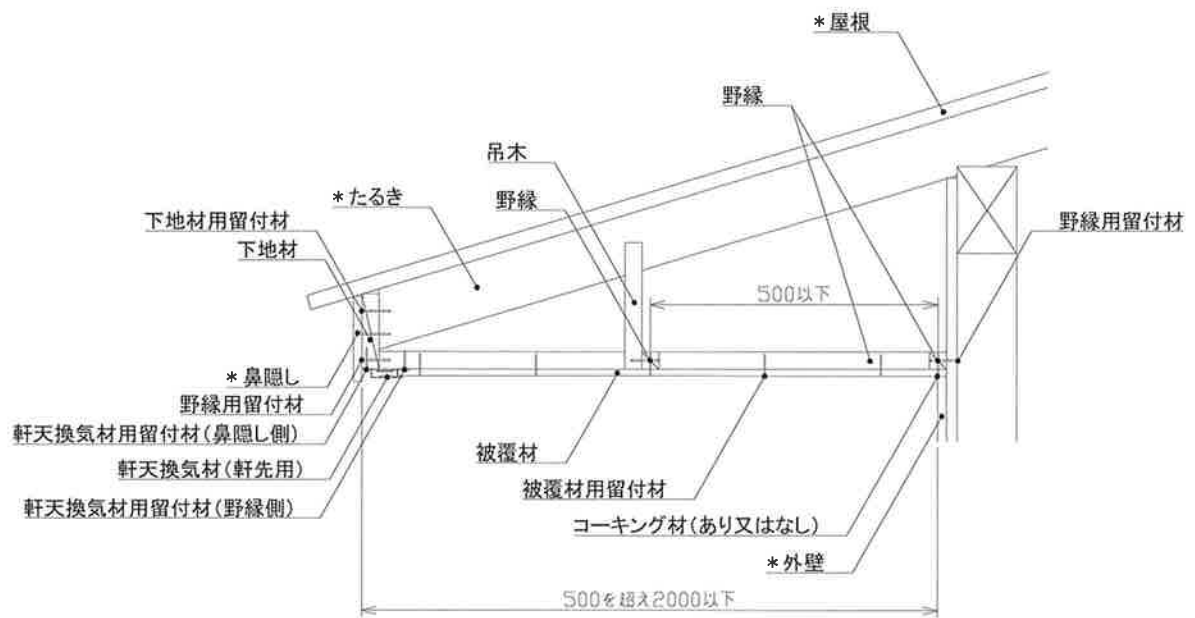


*評価対象外

図7 構造説明図

(軒の出が500mmを超え2000mm以下)

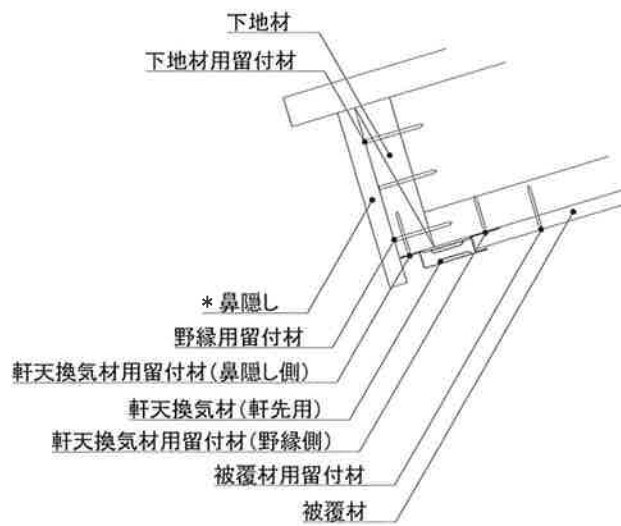
(単位：mm)



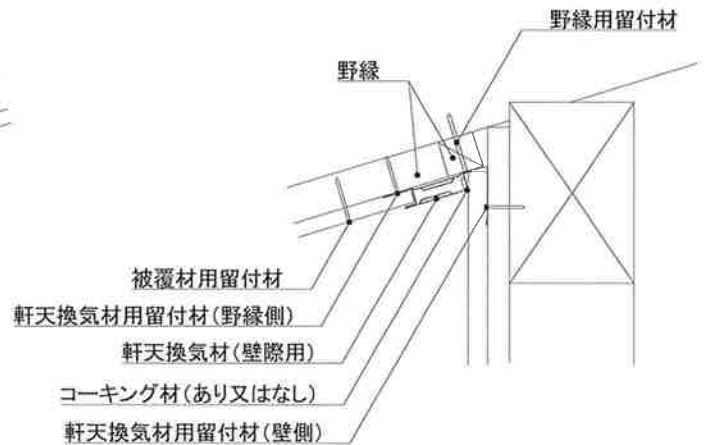
*評価対象外

図8 構造説明図

5-5. 軒天換気材の納まり



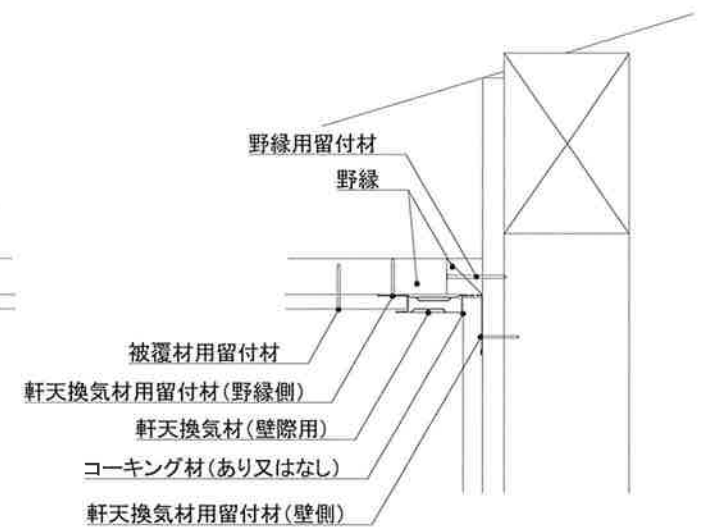
被覆材勾配
軒天換気材(軒先用)軒先施工の場合



被覆材勾配
軒天換気材(壁際用)壁際施工の場合



被覆材水平
軒天換気材(軒先用)軒先施工の場合



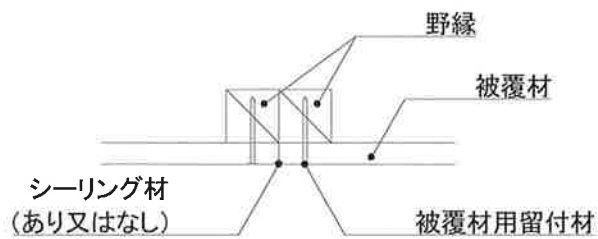
被覆材水平
軒天換気材(壁際用)壁際施工の場合

* 評価対象外

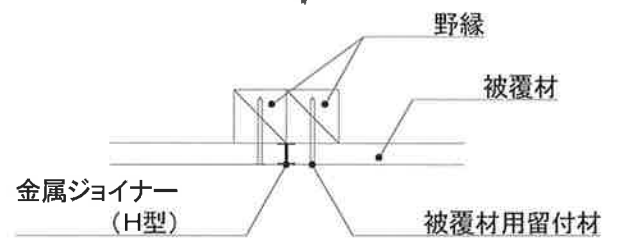
図9 構造説明図

5-6. 被覆材端部形状と目地仕様

被覆材端部形状: ベベル、スクエア
目地仕様: ①面取り突付け、②突き付け



目地仕様: ④金属ジョイナー



被覆材端部形状: 合いじゃくり
目地仕様: ③合いじゃくり

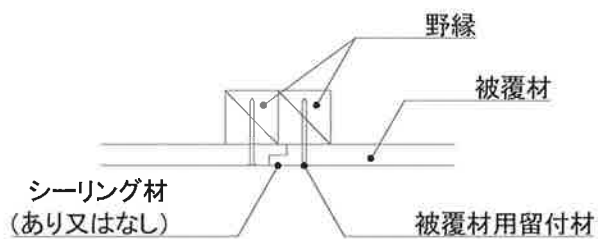
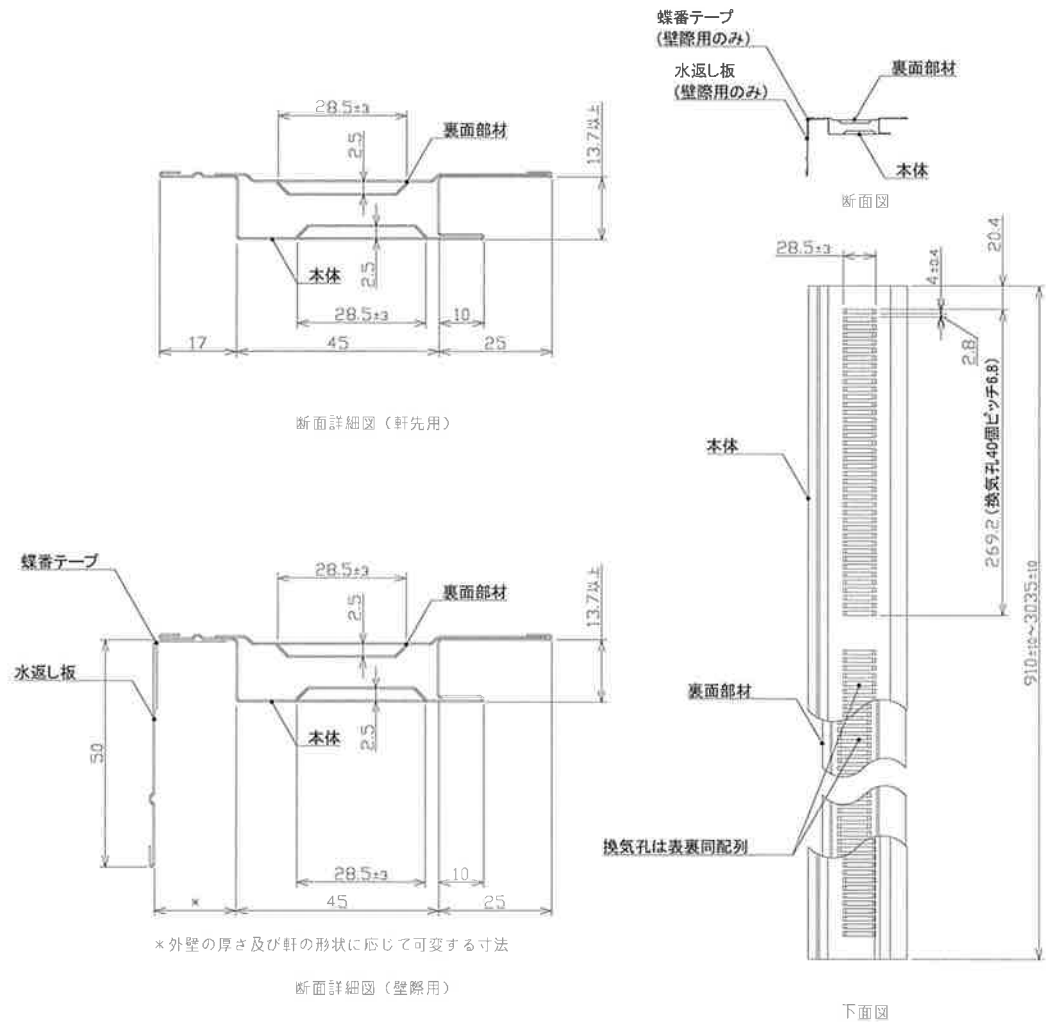
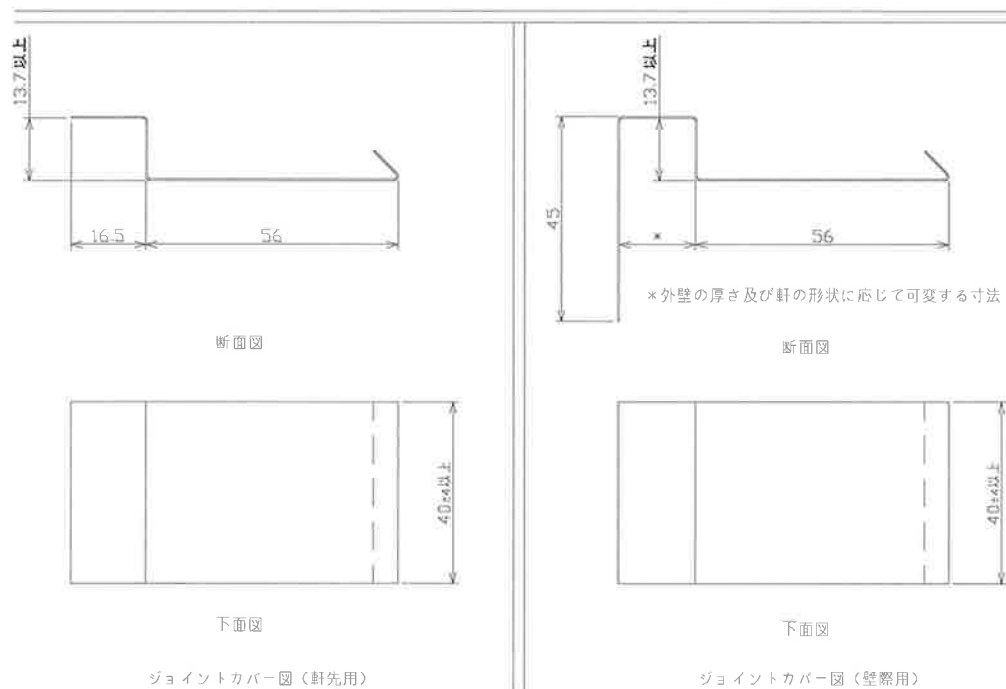


図10 構造説明図



軒天換気材図



ジョイントカバー図（軒先用）

ジョイントカバー図（壁際用）

図11 構造説明図

6. 施工方法

施工図の一例を図12～19に示す。

施工方法は以下の手順で行う。

(1) 下地材の取付け

下地材は500mm以下の間隔に配されたたるきに取付ける。

(2) 野縁の取付け

(軒の出が100mm以上500mm以下の場合)

野縁を軒の出方向は壁際に、軒の幅方向は455mm以下の間隔になるよう配置し、野縁用留付材にて取付ける。(軒の出が500mmを超え2000mm以下の場合)

1) 野縁を軒の出方向に500mm以下の間隔で配置できるよう吊木を配置する。吊木の軒の幅方向の間隔は1000mm以下とする。(野縁を直接たるきに取付ける構造の場合は吊木を省略することができる。)

2) 野縁を軒の出方向は壁際と壁際から500mm以下の間隔に、軒の幅方向は455mm以下の間隔になるよう配置し、野縁用留付材にて取付ける。吊木を省略する場合は、野縁を吊木に留付ける場合と同様の間隔で野縁をたるきに取付ける。

(3) 軒天換気材の取付け

軒天換気材は、軒天換気材用留付材を用いて取付ける。

軒天換気材を継ぐ場合は、突き付けとし、必要に応じてジョイントカバーにより突き付け部を覆う。

(4) 被覆材の取付け

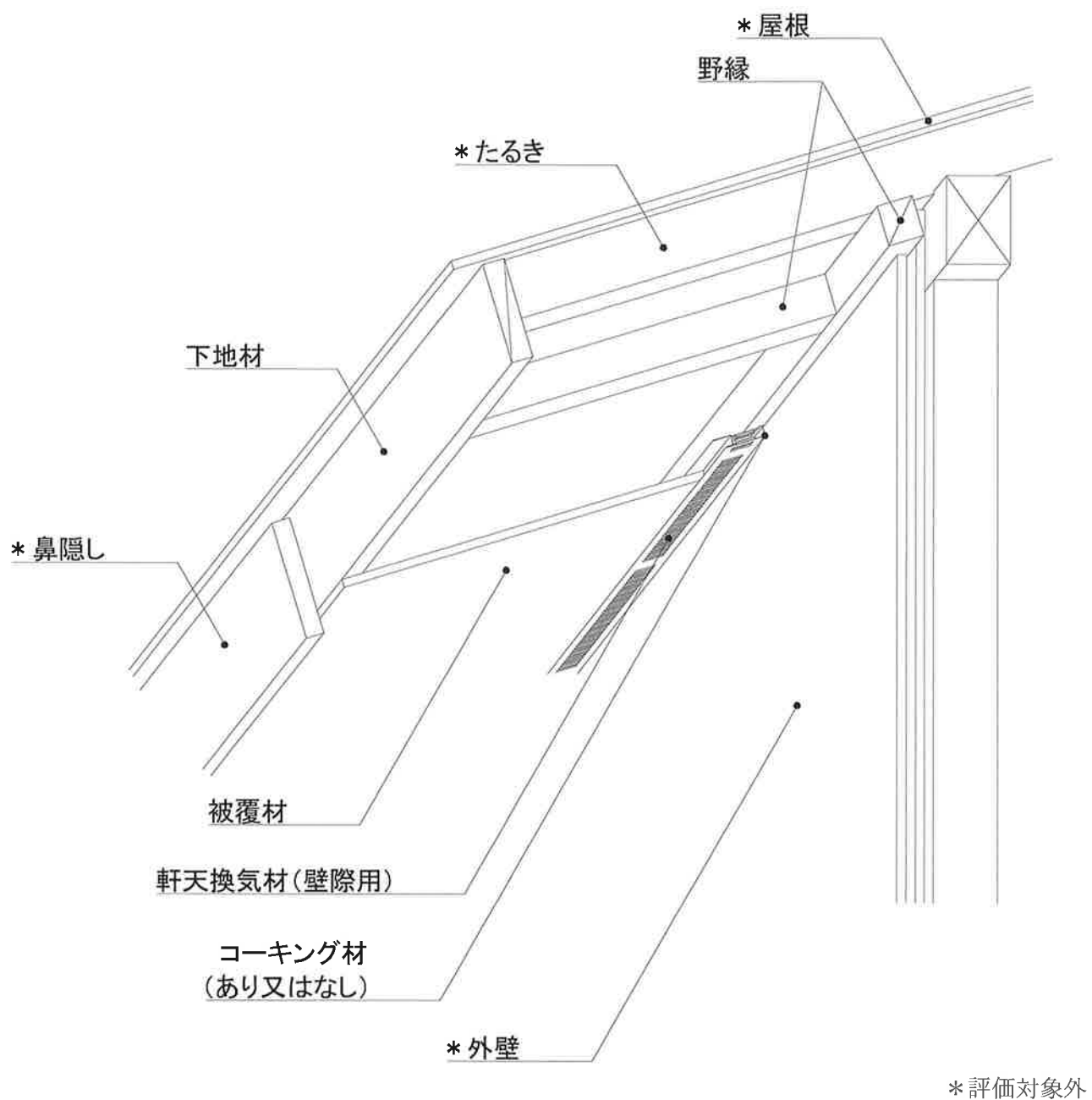
1) 被覆材は、軒天換気材の溝に嵌め込み、被覆材用留付材を用いて取付ける。

2) 被覆材の目地は野縁上に設け、目地仕様は①面取り突付け、②突付け、③合いじゃくり、④金属ジョイナーのいずれかとする。目地仕様が①、②、③の場合は必要に応じてシーリング材を用いて被覆材目地を覆う。

(5) 目地処理

軒元部の目地は、必要に応じてコーキング材を充てんし、隙間のないようにする。

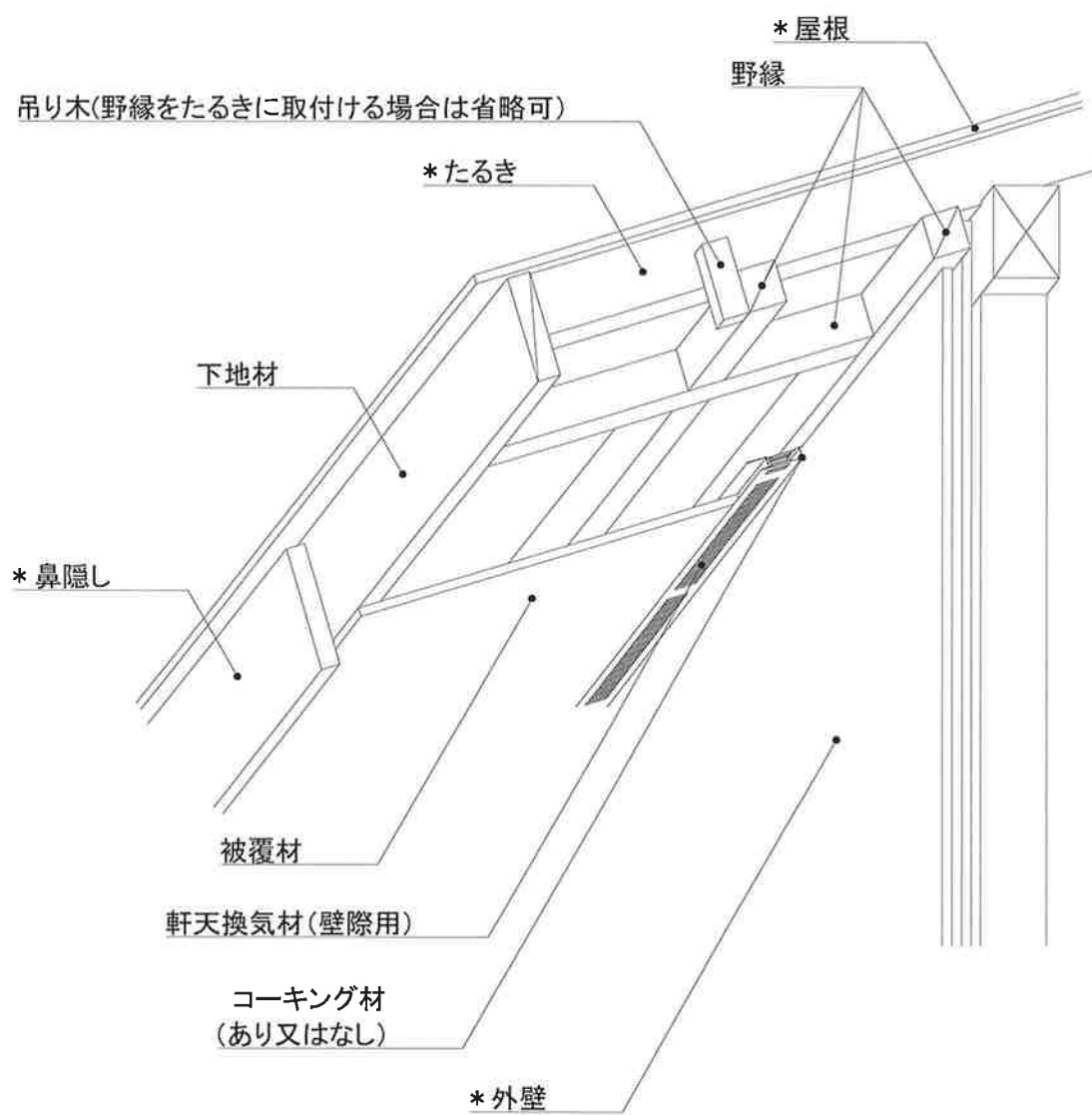
6-1. 被覆材が勾配仕様で軒天換気材が壁際の場合
(軒の出が100mm以上500mm以下)



透視図

図12 施工図

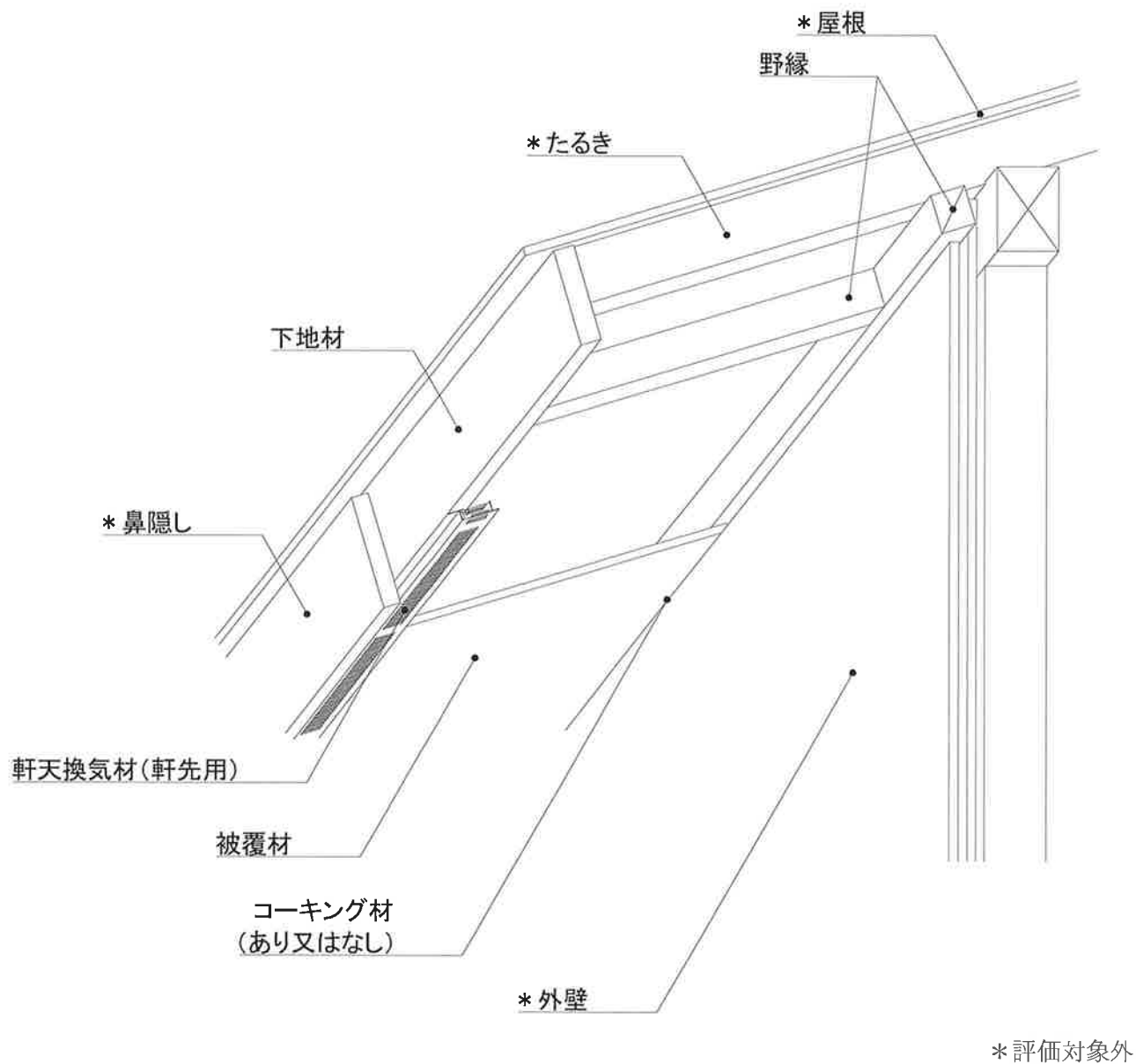
軒の出が500mmを超え2000mm以下



透視図

図13 施工図

6-2. 被覆材が勾配仕様で軒天換気材が軒先の場合
(軒の出が100mm以上500mm以下)



透視図

図14 施工図

軒の出が500mmを超え2000mm以下

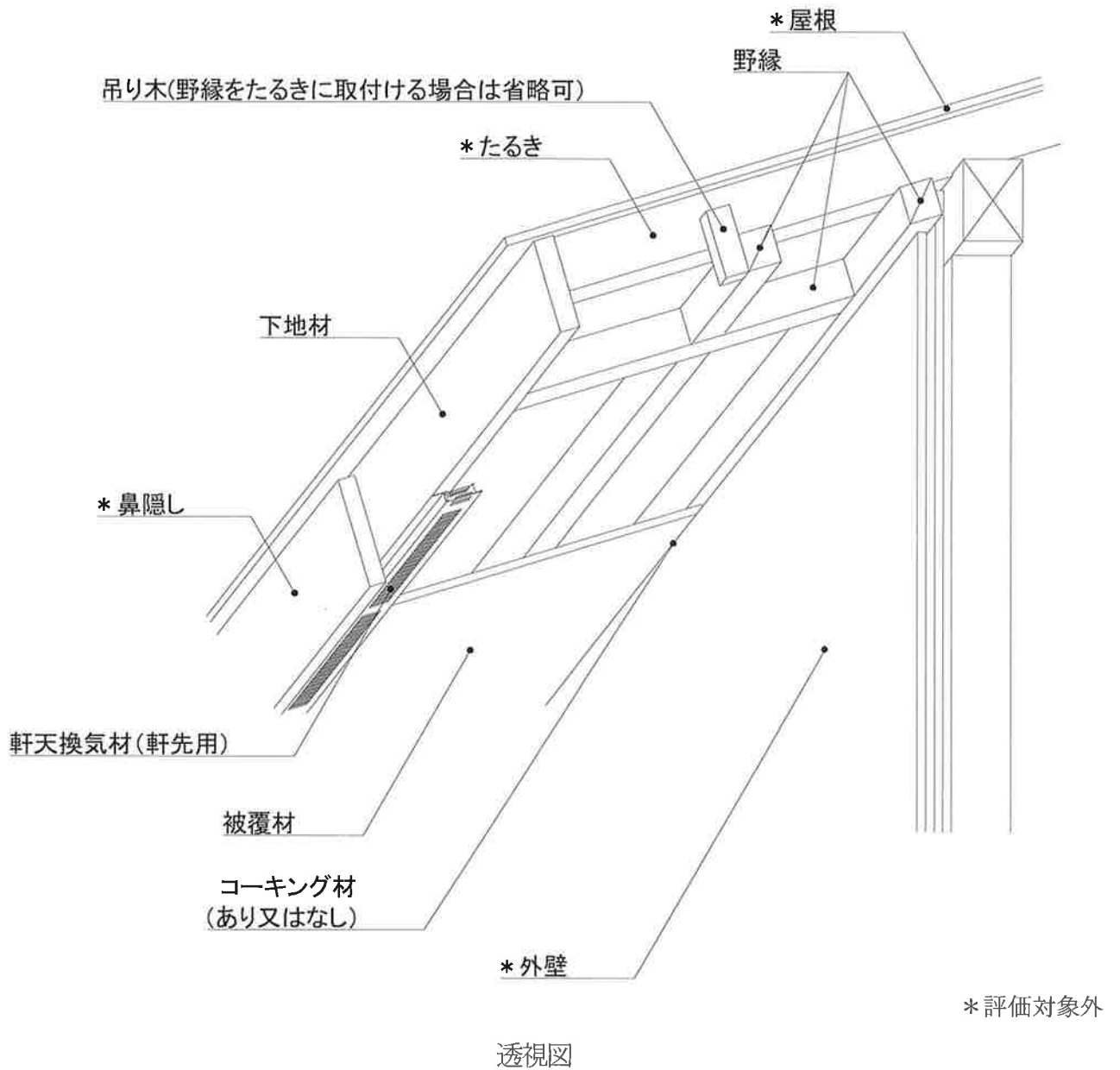
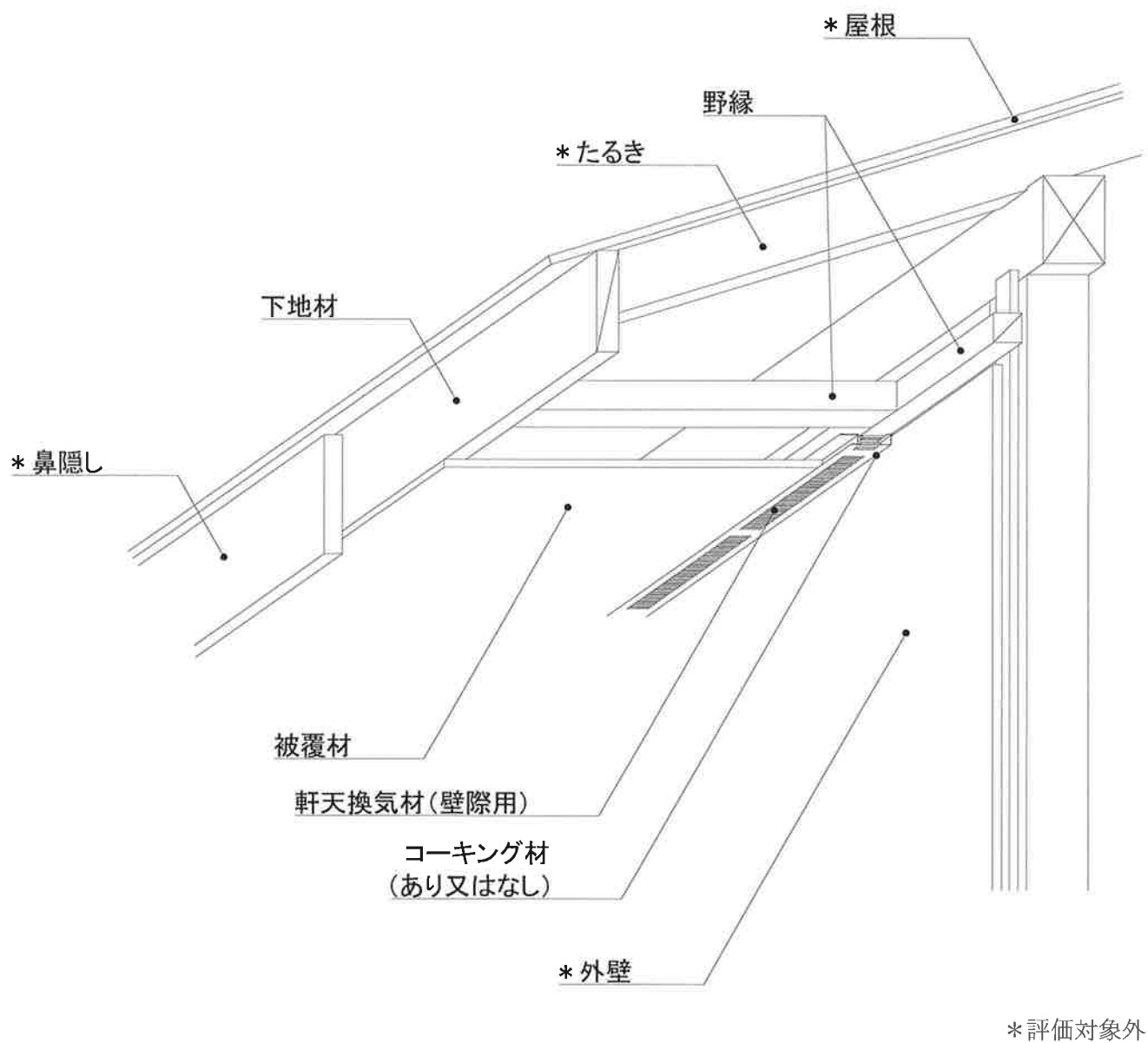


図15 施工図

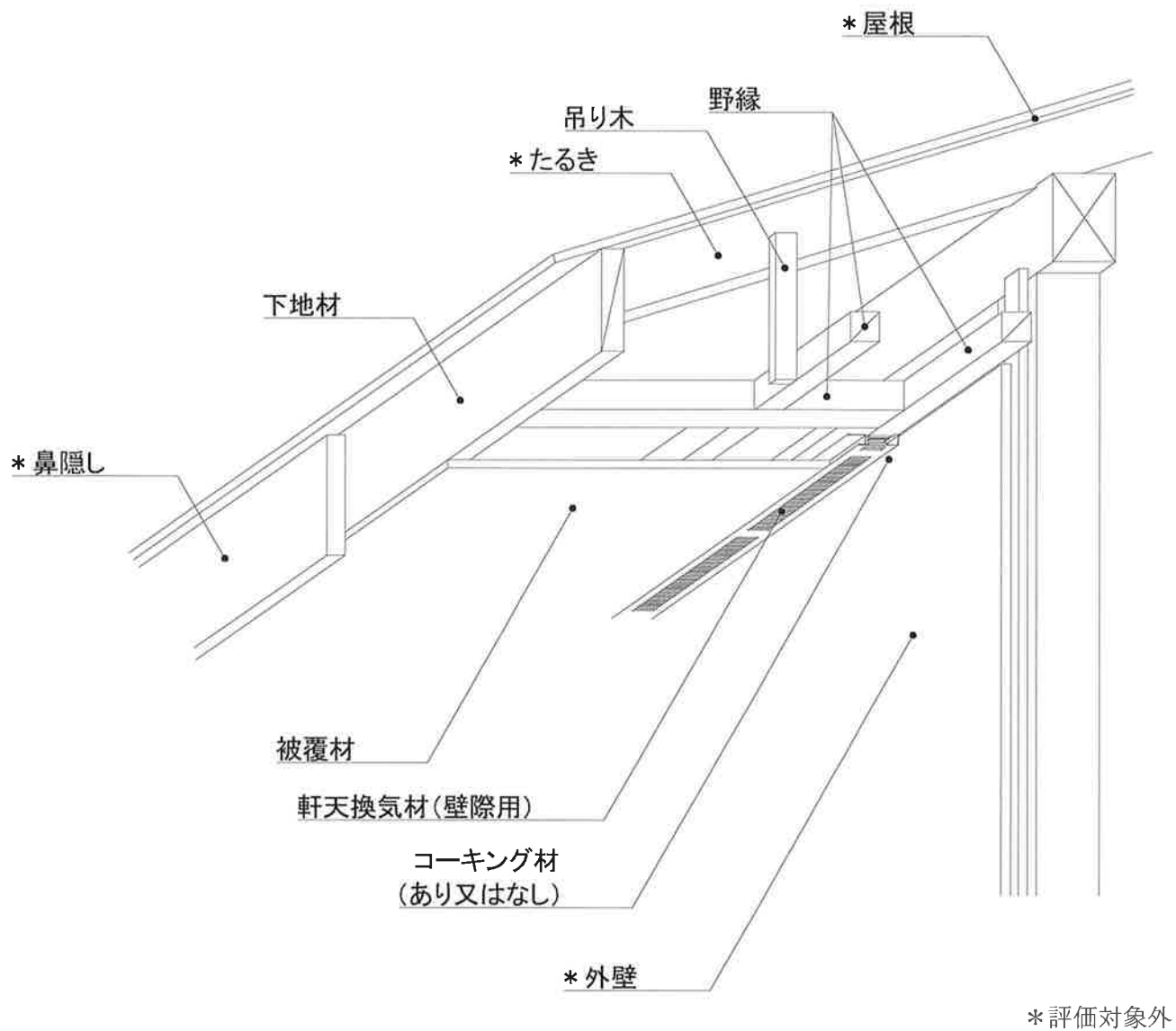
6-3. 被覆材が水平仕様で軒天換気材が壁際の場合
(軒の出が100mm以上500mm以下)



透視図

図16 施工図

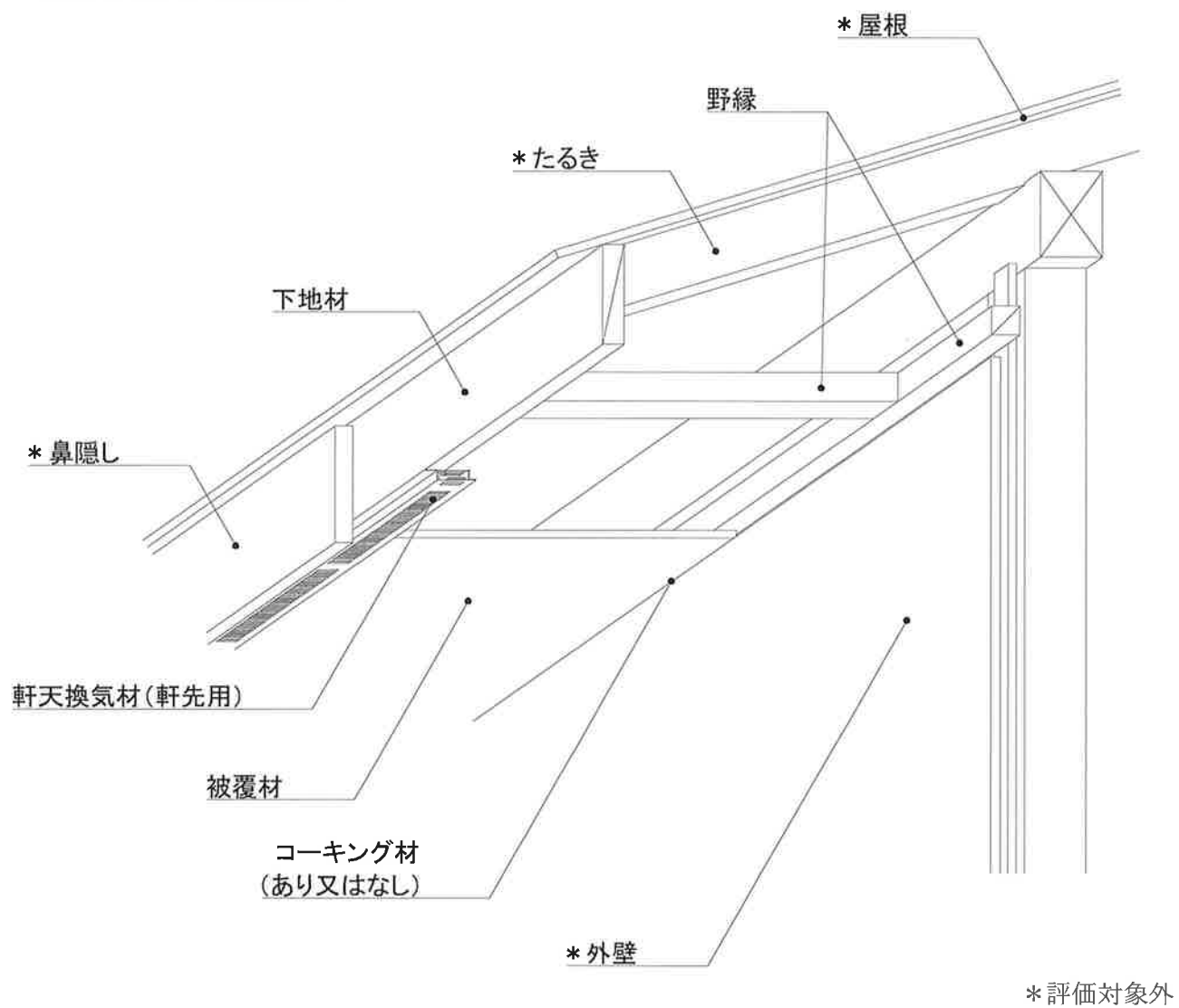
軒の出が500mmを超え2000mm以下



透視図

図17 施工図

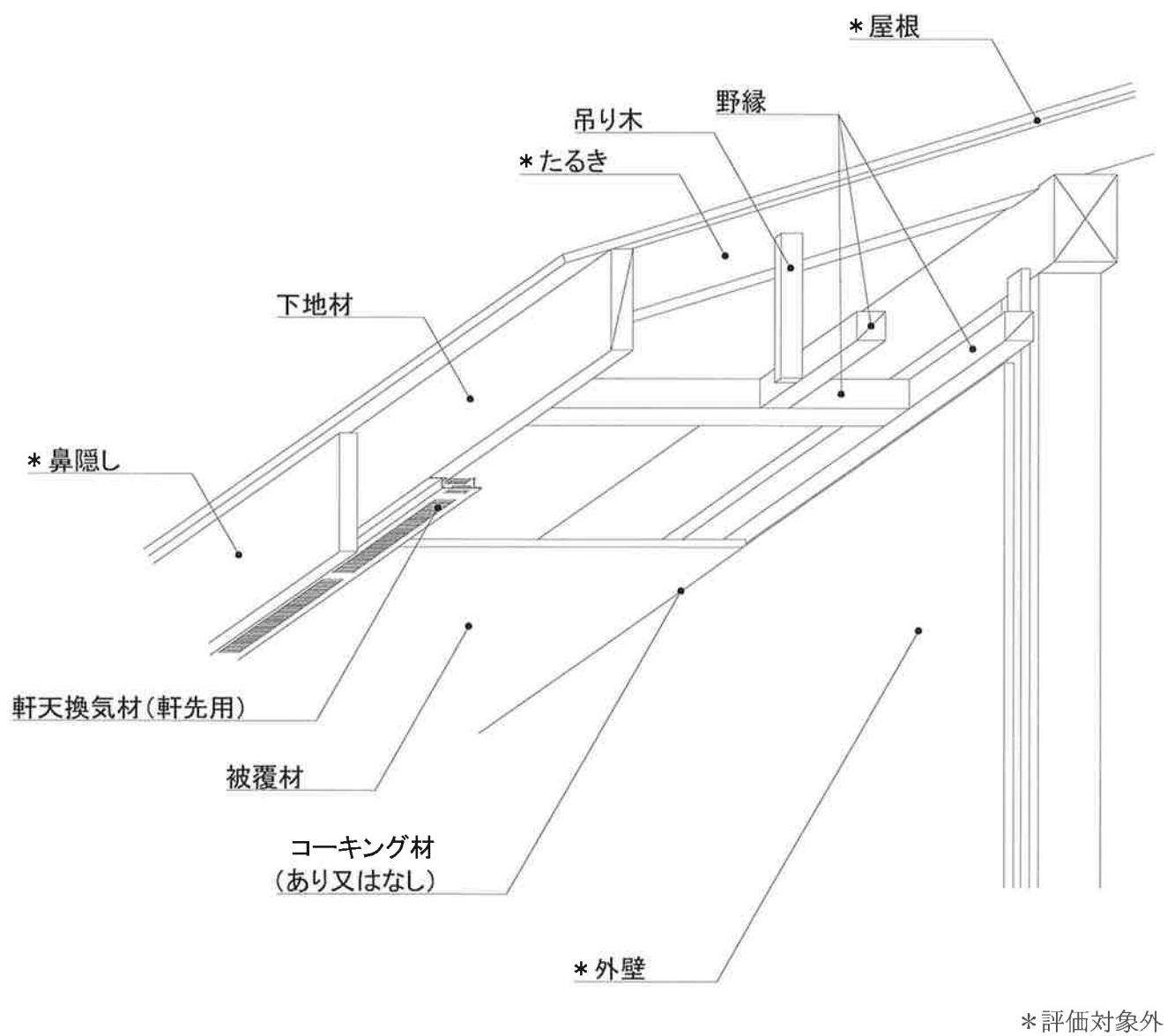
6-4. 被覆材が水平仕様で軒天換気材が軒先の場合
(軒の出が100mm以上500mm以下)



透視図

図18 施工図

軒の出が500mmを超え2000mm以下



透視図

図19 施工図